

# 京都看護助産学校



副学校長  
前中 由美



看護学科 教育主事  
森重 真弓  
(2022年4月1日から)



看護学科教育主事  
岡島 優子  
(2022年4月1日から)



看護学科 教育主事  
伊藤 睦美  
(2022年3月31日まで)



助産学科 教育主事  
佐藤 美春

## | 教育理念 |

### 感じる心、考える力、主体的な行動

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得し、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

## | 教育目的 |

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

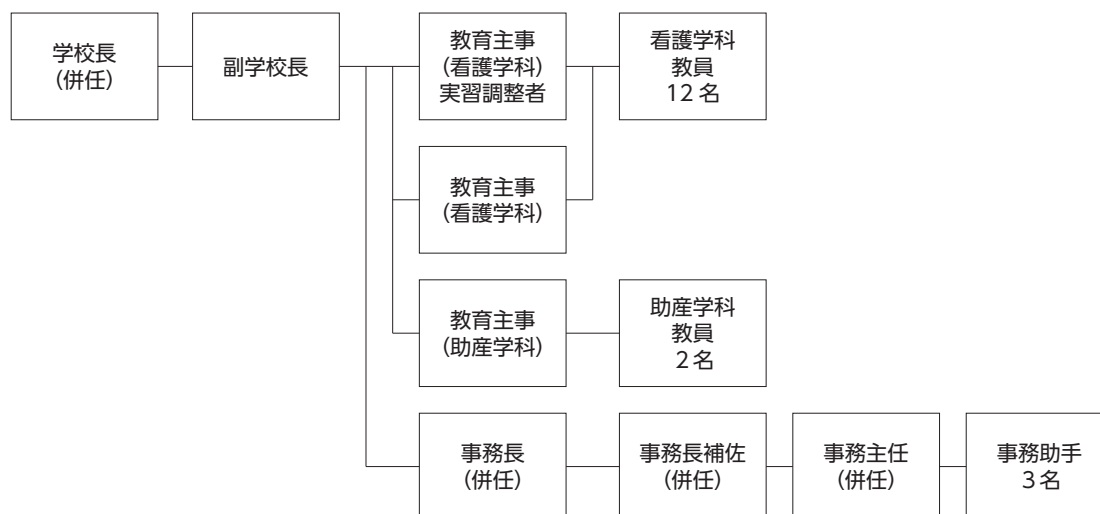
## | 教育目標 |

1. 生命の尊厳と個々の人権を尊重できる感性豊かな人間性を養う。
2. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、看護師としての人間関係を形成する能力を養う。
3. 看護師としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護を実践する。
4. 科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的能力を養う。
5. 健康の保持・増進、疾病の予防および健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
6. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割および他職種の役割を理解し、他職種と連携・協働する基礎的能力を養う。
7. 社会の動向に関心を持ち、常に主体的に看護を探究する姿勢と自己研鑽し続ける能力を養う。

## | 課程・定員 |

課 程	学 科	入学定員	総 定 員	在籍者数 (令和4年5月1日)			
				1年生	2年生	3年生	合計
看護専門課程	看護学科 (3年課程)	80人	240人	87人	84人	72人	243人
看護専門課程	助産学科 (1年課程)	18人	18人	18人	—	—	18人
計		98人	258人	105人	84人	72人	261人

## | 本校の組織 (令和4年度) |



## | 令和3年度 部門目標 |

部門目標	重点目標	主な取り組み
1 地域社会のニーズ・学生のニーズに応じた質の高い看護教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>改正カリキュラムの実施に向けた、教育内容の精選及び講師・実習施設との調整</li> <li>学生の臨床判断能力・看護実践能力の向上を目指した教育の充実</li> <li>科目の目標到達に適した教授方法の評価</li> <li>教員の教育実践能力の向上</li> <li>実習指導の充実に向けた臨床との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度改正カリキュラムの申請に向けた検討と調整</li> <li>看護技術取得に、学生同士によるピアチェックを導入</li> <li>高機能シミュレーターを用いた演習による臨床判断能力向上</li> </ul>
2 将来看護師・助産師として国立病院機構及び地域に貢献できる優秀な人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力的な学生募集活動</li> <li>高い国家試験合格率の維持に向けた学習支援 (全国合格率以上)</li> <li>国立病院機構および京都府内への就職者の確保 (70%以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校訪問68校 (前年度92校)</li> <li>ホームページに学校紹介動画</li> <li>オープンキャンパスを来校型とオンライン型を同時開催</li> </ul>
3 学生が安心して学べる教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の徹底</li> <li>感染状況に応じた教育計画の変更、学生の学習の保障</li> <li>学生生活のサポート体制の充実 (学習支援、個別面談、カウンセリング等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔授業と対面授業を効果的に活用</li> <li>臨地実習の一部を学内実習へ変更</li> <li>学校における感染予防の周知徹底</li> <li>学生の心理面へのサポートの充実</li> </ul>
4 職員が働きやすい職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員間の業務調整・相互協力による“チーム学校”としての組織の充実</li> <li>時間管理を念頭に入れた効率的な業務の遂行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変則勤務の活用による超過勤務時間の削減</li> <li>業務を見直し効率的な運用</li> </ul>

## | 入学状況 |

### 看護学科

年度 (回生)	試 験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者 からの 入学者数	補欠者 からの 入学者数	入学者数	退学者数	原級 留置者 (在籍者)	3年以上 在籍した 卒業生数	卒業生数 (3年)
2018年 (第17回生)	推薦(学校)	19	19	19	0	19	0	19	1			18
	推薦(公募)	24	24	20	0	20	0	20				20
	社会人	13	13	6	0	6	0	6			1	5
	一 般	102	100	55	10	32	0	32	2			30
	合 計	158	156	100	10	77	0	77	3	0	1	73
2019年 (第18回生)	推薦(学校)	19	19	19	0	19	0	19				19
	推薦(公募)	17	17	15	0	15	0	15				15
	社会人	18 (2)	18 (2)	12 (1)	0	12 (1)	0	12 (1)	1			11 (1)
	一 般	80 (7)	76 (7)	58 (2)	3 (2)	39 (2)	0	39 (1)	2 (1)			37 (1)
	合 計	134	130	104	3	85	0	85 (2)	3 (1)	0	0	82 (2)
2020年 (第19回生)	推薦(学校)	11	11	11	0	11	0	11				
	推薦(公募)	15 (1)	15 (1)	13 (1)	0	13 (1)	0	13 (1)				
	社会人	16 (2)	16 (2)	12 (1)	0	10 (1)	0	10 (1)				
	一 般	66 (3)	61 (3)	53 (2)	0	26 (1)	2 (1)	28 (2)	2			
	一 般 (2回目)	14 (2)	13 (2)	13 (2)	0	13 (2)	0	13 (2)	1			
	合 計	122 (8)	116 (8)	102 (6)	0	73 (5)	2 (1)	75 (6)	3	0		
2021年 (第20回生)	推薦(学校)	41 (2)	41 (2)	41 (2)	0	41 (2)	0	41 (2)	1			
	推薦(公募)	27 (3)	27 (3)	21 (1)	0	21 (1)	0	21 (1)				
	社会人	11	10	6	0	6	0	6		1		
	一 般	55 (3)	51 (3)	32 (1)	5	19 (1)	0	19 (1)	1			
	一 般 (追試験)		2	1	0	0	0	0				
	合 計	134 (8)	131 (8)	101 (4)	5	87 (4)	0	87 (4)	2	1		
2022年 (第21回生)	推薦(学校)	30 (2)	30 (2)	29 (1)	0	29 (1)	0	29 (1)				
	推薦(公募)	27 (1)	27 (1)	23 (1)	0	23 (1)	0	23 (1)				
	社会人	13 (1)	13 (1)	6 (0)	0	5 (0)	0	5 (0)				
	一 般	45 (5)	41 (5)	39 (3)	0	29 (3)	0	29 (3)				
	合 計	115 (9)	111 (9)	97 (5)	0	86 (5)	0	86 (5)	0	0		

( ) 男性再掲

助産学科

年度 (回生)	試験	応募者数	受験者数	合格者数	補欠 合格者数	合格者 からの 入学者数	補欠者 からの 入学者数	入学者数	退学者数	卒業者数
2020年 (第52回生)	特別選抜(学校)	16	16	12	0	12		12	0	12
	特別選抜(施設)	0	0	0	0	0		0	0	0
	一般	40	35	6	2	4	2	6	0	6
	合計	56	51	18	2	16	2	18	0	18
2021年 (第53回生)	特別選抜(学校)	12	12	10	0	10		10	0	10
	特別選抜(施設)	0	0	0	0	0		0	0	0
	一般	46	38	8	3	7	1	8	0	8
	合計	58	50	18	3	17	1	18	0	18
2022年 (第54回生)	特別選抜(学校)	18	18	12	0	12		12		
	特別選抜(施設)	3	3	1	0	1		1		
	一般	37	28	5	3	5	0	5		
	合計	58	49	18	3	18	0	18	0	0

| 卒業生の進路 |

看護学科

2022年5月1日現在

年度	回生	卒業者数	就職							進学				未就職
			国立病院機構		NC	官公立	法人	その他	看護職 以外	保健師	助産師	養護 教諭	大学	
			自施設	他施設										
2016年度	第13回生	82	43	29	1	0	1	1	0	0	6	0	0	1
2017年度	第14回生	87	42	29	3	1	5	1	0	0	6	0	0	0
2018年度	第15回生	73	22	29	7	4	3	0	0	0	4	0	1	3
2019年度	第16回生	88	30	25	3	9	8	0	0	0	8	0	1	4
2020年度	第17回生	74	36	26	2	3	0	0	0	0	4	0	2	1
2021年度	第18回生	83	39	32	1	1	2	0	0	2	5	0	0	1

年度	府内 府外	卒業生数	府内 就職者数	(再掲)		府外 就職者数	進学者	その他
				北部就職者	実習就職者			
2018年度	府内出身者	51	35	1	31	12	3	1
	府外出身者	22	7	0	7	11	2	2
2019年度	府内出身者	53	34	0	32	12	4	3
	府外出身者	35	12	0	12	17	5	1
2020年度	府内出身者	47	35	0	34	10	2	0
	府外出身者	27	15	1	14	7	4	1
2021年度	府内出身者	56	39	0	38	12	5	1
	府外出身者	27	15	0	15	9	2	0

助産学科

年 度	回 生	卒業生数	就 職							進学	未就職
			国立病院機構		NC	官公立	法人	その他	看護職 以外		
			自施設	他施設							
2017年度	第49回生	23	2	10	1	4	6	0	0	0	0
2018年度	第50回生	22	2	7	1	7	5	0	0	0	0
2019年度	第51回生	18	4	5	0	7	2	0	0	0	0
2020年度	第52回生	18	3	11	1	3	0	0	0	0	0
2021年度	第53回生	18	2	9	1	2	3	0	0	0	0

年 度	府内 府外	卒業生数	府内 就職者数		(再掲)				府外 就職者数		その他
			助産師	看護師	北部就職者		実習就職者		助産師	看護師	
					助産師	看護師	助産師	看護師			
2019年度	府内出身者	6	5	0	1	0	3	0	1	0	
	府外出身者	12	3	0	0	0	2	0	9	0	
2020年度	府内出身者	4	2	1	0	0	2	1	1	0	
	府外出身者	14	2	0	0	0	2	0	11	1	
2021年度	府内出身者	2	2	0	0	0	2	0	0	0	
	府外出身者	16	2	0	0	0	1	0	14	0	

国家試験合格状況

看護学科

	全国	(%)	機構附属 (%)		
			全国	近畿	本校
107回 (H30.3)	全体 (新卒)	91.0 (96.3)	98.4 (98.8)	99.7	100
108回 (H31.3)	全体 (新卒)	89.3 (94.7)	97.3 (98.1)	99.0	95.9
109回 (R2.3)	全体 (新卒)	89.2 (94.7)	97.3 (98.2)	98.5	96.6
110回 (R3.3)	全体 (新卒)	89.2 (94.7)	90.4 (95.4)	98.3	100
111回 (R4.3)	全体 (新卒)	91.3 (96.5)	98.7 (98.9)	99.4	100

助産学科

	全国	(%)	機構附属 (%)	
			全国	本校
101回 (H30.3)	全体 (新卒)	98.7 (99.4)	100	100
102回 (H31.3)	全体 (新卒)	99.6 (99.9)	100	100
103回 (R2.3)	全体 (新卒)	99.4 (99.5)	100	100
104回 (R3.3)	全体 (新卒)	99.6 (99.7)	100	100
105回 (R4.3)	全体 (新卒)	99.4 (99.7)	100	100

## | 入学試験実施状況 |

### 看護学科

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	令和4年1月20日(木)	令和4年1月22日(土)	令和4年1月27日(木)
社会人入試	令和3年11月18日(木)	令和3年11月20日(土)	令和3年11月25日(木)
公募推薦入試	令和3年11月18日(木)		令和3年11月25日(木)
推薦入試			

### 助産学科

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	令和4年1月20日(木)	令和4年1月22日(土)	令和4年1月27日(木)
特別選抜入試	令和3年11月18日(木)		令和3年11月25日(木)

## | 学生募集活動 |

### <ガイダンス>

月	日	曜	内容	場所	実績数	担当者
5	12	水	ケーホウ主催 京都府立亀岡高等学校	Web (ZOOM)	9人	太田
	13	木	TAP主催 京都府立京都八幡高等学校	Web (ZOOM)	3人	藤尾
6	7	月	ケーホウ主催 京都府立京都すばる高等学校	京都すばる高等学校	2人	藤尾
	10	木	TAP主催 京都文教高等学校	みやこめっせ	2人	藤尾
	19	土	さんぼう主催 会場形式進学相談会	京都JAビル	23人	伊藤・佐藤
	24	木	ケーホウ主催 京都府立北嵯峨高等学校(2年)	北嵯峨高等学校	11人	伊藤
9	22	水	ケーホウ主催 京都府立西城陽高等学校	西城陽高等学校	21人	太田
令和4 2	2	水	ケーホウ主催 京都府立向陽高等学校	向陽高等学校	11人	伊藤
	3	木	ケーホウ主催 京都府立桂高等学校	桂高等学校	8人	伊藤
	19	土	さんぼう主催 会場形式進学相談会	京都JAビル	6人	伊藤・佐藤
	21	月	TAP主催 滋賀県立比叡山高等学校	比叡山高等学校	1人	伊藤
	21	月	ケーホウ主催 京都府立京都すばる高等学校	すばる高等学校	1人	伊藤
3	9	水	TAP主催 京都府立西城陽高等学校	西城陽高等学校	30人	伊藤
					計	128人

### <高校訪問>

	都道府県別訪問校(新規再掲)	訪問校数(指定校再掲)	内容
6月	京都府 23校(0校) 大阪府 3校(0校) 滋賀県 0校(0校) 福井県 0校(0校)	26校(19校)	学校説明会 入学試験の説明 看護系進学予定者・主な進路の確認 情報交換
7月	京都府 21校(0校) 奈良県 1校(0校) 兵庫県 2校(0校) 大阪府 2校(0校) 滋賀県 15校(0校) 福井県 1校(0校)	42校(22校)	学校説明会 入学試験の説明 看護系進学予定者・主な進路の確認 情報交換

延べ訪問高校数 68校(新規0校)

<オープンキャンパス>

(1) 高校教員対象

感染拡大防止のため中止

(2) 応募者対象

学 科	日 程	参加者数	WEB参加者数	内 容
看護学科	令和3年6月12日(土)	12名	10名	学校説明 学校生活の紹介 入学試験の説明 模擬授業体験 沐浴、採血 看護学生との交流
	令和3年7月18日(日)	35名	17名	
	令和3年8月22日(日)	—	48名	
	令和3年9月4日(土)	—	39名	
	令和3年10月9日(土)	—	24名	
	令和4年3月26日(土)	29名	5名	
	計	76名	143名	
助産学科	令和3年7月18日(日)	33名	27名	学校説明 学校生活の紹介 入学試験の説明 助産学生による分娩介助 シミュレーション 助産学生との交流
	令和3年8月22日(日)	—	73名	
	令和3年9月4日(土)	—	48名	
	計	33名	148名	

| 研究活動 |

1) 研究活動

<学会発表>

発表年月日	発表学会
演題名 等 / 演者 (下線は当院所属)	
2021.09.23	第63回 近畿地区国立病院看護学会 / オンライン
	「COVID-19感染拡大の状況下におけるICT教育の導入と今後の教育のあり方について」 柚木 麻央
2021.09.23	第63回 近畿地区国立病院看護学会 / オンライン
	「COVID-19禍におけるオンライン授業導入の報告」 並崎 直美, 柚木 麻央
2021.09.23	第63回 近畿地区国立病院看護学会 / オンライン
	「COVID-19の感染拡大下における看護助産学校のICTを活用した教育の取り組み」 寺田 美鳥, 並崎 直美
2021.10.15-16	第62回 日本母性衛生学会総会・学術集会 / オンライン
	「COVID-19禍におけるオンライン授業併用による学習効果～助産診断・技術学の到達度への影響～」 並崎 直美, 柚木 麻央, 前教員
2021.10.22-23	第75回 国立病院総合医学会 / オンライン
	「ICTを活用した看護教育の実際—管理者の立場から— (シンポジウム)」 前中 由美
2021.10.22-23	第75回 国立病院総合医学会 / オンライン ベストポスター賞
	「COVID-19禍における助産学生のオンライン出産準備教室開催の実践報告」 柚木 麻央, 並崎 直美
2021.10.22-23	第75回 国立病院総合医学会 / オンライン
	「静脈血採血の技術チェックにおける看護学生のピア評価の導入とその実態」 榮 圭子, 晝間 梓

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2021.10.22-23 「臨床判断能力を高めるために高機能シミュレーターを使用した演習による学びの実態」 中村なぎさ, 寺田 美鳥	第75回 国立病院総合医学会 / オンライン
2021.10.22-23 「看護学生の在宅看護論実習に向けた研修による学びの到達度」 太田 恵子, 中村なぎさ, 山本 緑	第75回 国立病院総合医学会 / オンライン

<令和3年度 京都医療センター成果発表会>

発表年月日 演題名等 / 演者 (下線は当院所属)	発表学会
2022.01.31-02.10 「ループリックを用いた分娩介助評価表の活用と課題」 柚木 麻央, 並崎 直美	成果発表会
2022.01.31-02.10 「基礎看護学実習Ⅱに向けたシミュレーターを用いた実習前研修の取り組みの報告」 山本 緑, 寺田 博子	成果発表会

<副学校長・教育主事協議会 グループ活動>

名称	テーマ	副学校長・教育主事
1・2年目看護教員育成	1・2年目教員の「教育実践力」「リフレクションの能力」の向上を図る。研究授業 (大阪南/オンライン) (姫路/演習授業) 計2回	前中由美、佐藤美春 他校教育主事
中堅看護教員の育成	学校運営に携わる自分の役割を認識し、目標達成に向けた実践を通してリーダーとして成長する。オンラインによる研修 計3回	伊藤睦美 他校副学校長 他校教育主事
ICT	ICT活用に関するグループ活動	伊藤睦美、佐藤美春 他校教育主事
多職種	「多職種との連携・協働に係る教育」に関するグループ活動	前中由美 他校教育主事

<教員研修会 研究グループ活動>

グループ	メンバー	活動テーマ	活動目標
1グループ	中村なぎさ 太田 恵子 恵美 徹生	臨床判断能力を高めるために高機能シミュレーターを使用した卒業前研修の学びの実態	・シミュレーターを用いた卒業前研修での学生の学びの実態を明らかにする。
2グループ	寺田 美鳥 近藤 尚子 遠藤 真理	遠隔授業における授業評価の分析と課題の明確化	・遠隔授業に対する講師の感想や意見をまとめ、課題を明確にする。
3グループ	山本 緑 寺田 博子	シミュレーターを用いた基礎看護学実習Ⅱ・実習前研修での学習効果と課題	シミュレーターを用いた基礎看護学実習Ⅱ・実習前研修の学習効果と課題を明らかにする。
4グループ	榮 圭子 晝間 梓 大上 寿子 花村 一葉	基礎看護技術教育における看護学生のピア評価の効果	看護学生の基礎看護技術の習得にピア評価を行い、その効果を明確にする。
5グループ	柚木 麻央 並崎 直美	ループリックを用いた分娩介助評価表の活用と課題	ループリックを用いた分娩介助評価表の活用と課題を明らかにする。



<研究授業>

	月日	氏名	授業名	内容
1	令和3年5月27日	柚木 麻央	助産診断・技術学Ⅰ 妊娠期	妊婦健診 OSCE
2	令和3年6月18日	並崎 直美	助産診断・技術学Ⅱ 分娩期 (臨床推論)	異常分娩 (回旋異常)
3	令和4年2月15日	並崎 直美	卒業前分娩介助 OSCE	分娩介助 OSCE
4	令和3年10月11日	寺田 博子	基礎看護技術Ⅲ	清潔援助の実際
5	令和3年10月18日	太田 恵子	基礎看護学実習Ⅰ-①研修	環境の理解
6	令和3年11月8日	恵美 徹生	成人看護学演習	胃がん術後の第一離床
7	令和3年11月12日	山本 緑	老年看護学演習Ⅱ	人工骨頭置換術を受けた高齢者の看護：日常生活動作能力再獲得・残存機能を引き出す看護
8	令和3年12月6日	大上 寿子	基礎看護技術Ⅲ	採血
9	令和3年12月9日	晝間 梓	成人看護学実習Ⅰ	中間カンファレンス～不眠の要因を考え、必要な援助が検討できる～
10	令和4年1月6日	寺田 美鳥	基礎看護技術Ⅵ	点滴静脈内注射の実際
11	令和4年1月13日	遠藤 真理	小児看護学実習	南京都病院院内実習：受け持ち患児の健康障害と成長発達に応じた安全安楽な遊びを考える
12	令和4年1月28日	花村 一葉	成人看護援助技術Ⅰ	急性期における主要症状：ショック
13	令和4年2月22日	榮 圭子	小児看護学概論	予防接種
14	令和4年2月28日	中村なぎさ	卒業前研修	複数患者への対応 (複数患者の状態把握と必要な援助の実施)
15	令和3年10月29日	近藤 尚子	実習カンファレンス	統合実習での中間カンファレンス 優先順位の考え方について

2) 研修

<近畿グループ主催 研修>

会期	研修名	氏名	場所
令和3年9月21日(火) 9:55~17:00	令和3年度初期看護教員研修(Ⅰ期)	並崎 直美 恵美 徹生 花村 一葉	オンライン研修 (CiscoWebex)
令和3年12月13日(月) 10:00~17:00	令和3年度初期看護教員研修(Ⅱ期)	並崎 直美 恵美 徹生 花村 一葉	オンライン研修 (CiscoWebex)
令和3年12月23日(木) 10:00~17:00	令和4年度中堅看護教員研修	大上 寿子 寺田 美鳥 柚木 麻央	オンライン研修 (CiscoWebex)

<副学校長・教育主事協議会>

(1) 中堅看護教員研修

日程	研修内容	担当	参加者
令和3年10月22日 13:00~15:00 (WEB開催)	1. 自校のカリキュラムプレゼンテーション 2. GWカリキュラムの課題解決に向けたリーダーとしての役割・課題	伊藤 睦美 他校副学校長・ 教育主事	太田 恵子 晝間 梓
令和3年12月16日 15:00~17:00 (WEB開催)	1. カリキュラムの課題解決に向けたリーダーとしての役割・課題(中間発表) 2. リーダーとしての役割・課題の達成に向けた目標と対策について～後半の取り組み～	伊藤 睦美 他校副学校長・ 教育主事	太田 恵子 晝間 梓

日程	研修内容	担当	参加者
令和4年2月10日 10:00~12:00 (WEB開催)	1. 課題解決に向けたマネジメントの実践報告 2. リーダーとして取組を行った結果、自らが得た今後に生かせる内容と行動について、リーダーとして成長したこと	伊藤 睦美 他校副学校長・ 教育主事	太田 恵子 晝間 梓

(2) 1、2年目教員研修

日程	研修内容	担当	参加者
令和3年9月8日 10:00~16:00	1. 遠隔授業参観「糖尿病患者の看護」 2. 授業参観リフレクション 3. ディスカッションと全体共有	前中 由美 佐藤 美春 他校教育主事	並崎 直美 花村 一葉 恵美 徹生
令和2年11月26日	1. 先輩教員の演習授業「酸素療法・廃痰ケア」にサポート教員として参加(学生の了承を得て撮影) 2. 演習授業のリフレクション 3. ビデオ撮影した映像を用いて授業のリフレクション、授業再構成	前中 由美 佐藤 美春 他校教育主事	並崎 直美 花村 一葉 恵美 徹生

<学校>

(1) 実務研修

	氏名	ねらい	場所	期間
1	遠藤 真理 寺田 美鳥	・ショールームを見学し、実際の介護用品や医療機器を知ることで、現在の在宅で使用されている物品の理解を深める。 ・担当者からショールームに訪問されるお客様の実際や福祉サービスとの連携について話を聞き、改正カリキュラムでの地域・在宅看護論領域の学習内容の検討に活用する。	三笑堂ショールーム	8月27日
2	花村 一葉	実習目標達成のための具体的な看護の場面の抽出や指導方法の考察に活かす。また、看護管理の実際について知ることによって統合実習の指導に繋げる。	NHO京都医療センター	9月15日 9月17日
3	恵美 徹生	担当領域で行われている看護を理解し、周手術期における教材の研究を深める。この実務研修で得た学びを今後の実習指導に具体的に反映し、学生の学びが促進されるようにする。また、中間監督者として、安全管理・感染管理・人材管理を知り、管理的視点を高める機会とする。	NHO京都医療センター	10月12日
4	太田 恵子 晝間 梓	学生が「精神障害を抱える対象が社会生活を送るために必要な援助と看護師の役割」を理解できるよう、やまと精神医療センターでの病棟管理や病棟での看護の実際を見学し、今後の学生指導に活かす。	NHOやまと精神医療センター	10月15日
5	太田 恵子 近藤 尚子	地域で生活しながら通院治療を受け、必要時入院する対象の支援について多職種連携の実際を知り、2022年度新カリキュラムに向けて、地域・在宅看護論の構築を考えたい。	NHO京都医療センター 患者支援センター	10月21日
6	寺田 美鳥	医療安全管理係長の活動内容を知り、医療安全管理の実際や看護師への指導の視点を学生指導に役立てる。	NHO京都医療センター 医療安全	11月9日
7	中村なぎさ	施設内の医療チームの役割や活動内容を知り、2022年度新カリキュラムに向けて、多職種との連携・協働を学ぶための実習内容の検討に役立てる。	NHO京都医療センター	11月9日 11月24日
8	寺田 博子	患者支援センターの活動の実際や多職種との連携について学び学生指導に活かす。	NHO京都医療センター 患者支援センター	11月12日
9	榮 圭子	患者支援センターの役割を知り、学生指導に活かす。	NHO京都医療センター 患者支援センター	11月12日 11月13日
10	山本 緑	成人慢性期において看護の重症心身障碍児の入院に関する病棟の看護及び管理の実際について学び、授業及び実習指導に活かす。	NHO南京都病院	9月28日 9月29日

	氏名	ねらい	場所	期間
11	山本 緑	地域で生活しながら通院治療を受け、必要時入院する対象の支援について多職種連携の実際を知り、講義内容や実習指導に活かす。	NHO 京都医療センター 患者支援センター	10月5日
12	晝間 梓	地域・在宅看護論実習の学修内容を考える。	総合老人福祉施設 社会福祉法人同和園	10月7日
13	遠藤 真理	看護管理の実際を学び、管理的視点を高める。また、消化器疾患をもつ終末期患者への看護の実際を知り、今後の実習指導に活かす。	NHO 京都医療センター	10月15日
14	並崎 直美	産科病棟の看護の管理について学ぶ。対象者のケアの体制、スタッフ教育の実際や実習指導体制などの管理について学ぶ。	NHO 京都医療センター	10月12日

## (2) 研修会・学会参加

	会期	研修・学会名	場所	参加者
1	7月24日	第29回京都母性衛生学会総会・学術集会 「周産期メンタルヘルス」	オンライン研修	助産学科 教員2名 教育主事1名
2	7月30日	令和3年度 合同夏期研修会	オンライン研修	副学校長・ 教育主事3名 教員13名
3	9月4日	教員研修会「第1回研修会」	オンライン研修	教員14名
4	9月23日	第63回国立病院近畿看護学会 「新たな風を 変革」	オンライン	副学校長・ 教育主事2名 教員13名
5	10月15日 10月16日	第62回日本母性衛生学会総会・学術集会 「不確実な社会で、多様性と「やさしさ」を考える」	オンライン	助産学科 教員2名 教育主事1名
6	10月23日	第75回国立病院総合医学会 「社会の大転換期における国立医療救う、支える、育む、拓く～連帯と挑戦～」	オンライン	副学校長・ 教育主事3名 教員14名
7	12月24日	教員研修会「第2回研修会」	オンライン研修	教員14名
8	2月6日	コロナ禍における看護実習のDX化の取組み	オンライン研修 株式会社 神陵文庫主催	助産学科 教員1名
9	2月26日	胎児生理学とCTGに関する教育コース 2022年第1回	オンライン研修 三重大学大学院医学系研究科 産婦人科学教室内主催	助産学科 教員2名 教育主事1名
10	3月14日	オンライン授業の改善策	オンライン研修・ オンデマンド 茨城大学 新井講師	教員9名 副学校長・ 教育主事3名

## 3) 社会への貢献

### <公開講座>

回	日時	内容	参加人数
1	令和3年7月19日 13:30~15:00 対面開催	講演「感染予防と免疫力アップについて」 演示「ガウンテクニック」 体験「ビニール袋でガウン作成」「コロナ体操とスマホッ首予防体操」	18名
2	令和3年8月23日 13:30~15:00 対面開催	講演「感染予防と免疫力アップについて」 演示「ガウンテクニック」 体験「ビニール袋でガウン作成」「コロナ体操とスマホッ首予防体操」	8名

### <実習指導者研修>

学校主催 実習指導者研修会

日程	研修内容	担当	参加者
令和3年7月30日 13:30~16:30	<集合及びWEB研修> 1. 看護基礎教育の教育課程 2. 学生理解 3. 実習指導者の役割 4. 実習指導案の意義と指導計画	副学校長・教育主事・教員	近畿グループ病院の 次期実習指導者 64名
令和3年9月30日 13:30~16:30	<集合及びWEB研修> 1. 実習指導方法の実際 2. 評価の基礎知識 3. 実習指導者に求められる資質	副学校長・教育主事・教員	近畿グループ病院の 次期実習指導者 62名

### <外部講師>

担当者名	研修会等の主催者	研修会等の名称	講義等テーマ	回数
前中 由美	国立病院機構 近畿グループ	令和3年度保健師助産師 看護師実習指導者講習会	実習指導方法論 実習指導の方法と実習指導者の 役割	1
	国立病院機構 近畿グループ	令和3年度保健師助産師 看護師実習指導者講習会	看護教育課程論 基礎看護学・在宅看護論	1
伊藤 睦美	国立病院機構 近畿グループ	令和3年度保健師助産師 看護師実習指導者講習会	実習指導方法論 実習指導の評価	2
藤尾 泰子	国立病院機構 近畿グループ	令和3年度保健師助産師 看護師実習指導者講習会	実習指導方法論 臨床判断	1
榮 圭子	国立病院機構 近畿グループ	令和3年度保健師助産師 看護師実習指導者講習会	実習指導方法演習	4
寺田 博子	京都府看護協会	令和3年度実習指導者 講習会	実習指導方法演習	6
太田 恵子	国立病院機構 南京都病院	4年目看護師 キャリアアップ研修	教員の仕事とは	1

### <外部委員>

氏名	委員会/委員名	団体名
佐藤 美春	理事会/理事	京都母性衛生学会
並崎 直美	理事会/会計副委員長	京都母性衛生学会
柚木 麻央	理事会/会計委員	京都母性衛生学会

## | 令和3年度 学校評価 結果 (看護学科) |

### 学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は平成27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。

国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による令和3年度の学校相互評価は、COVID-19感染拡大に伴い中止になりました。令和3年度は自己点検・自己評価と学校関係者評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。

### 学校自己評価 (看護学科) 結果

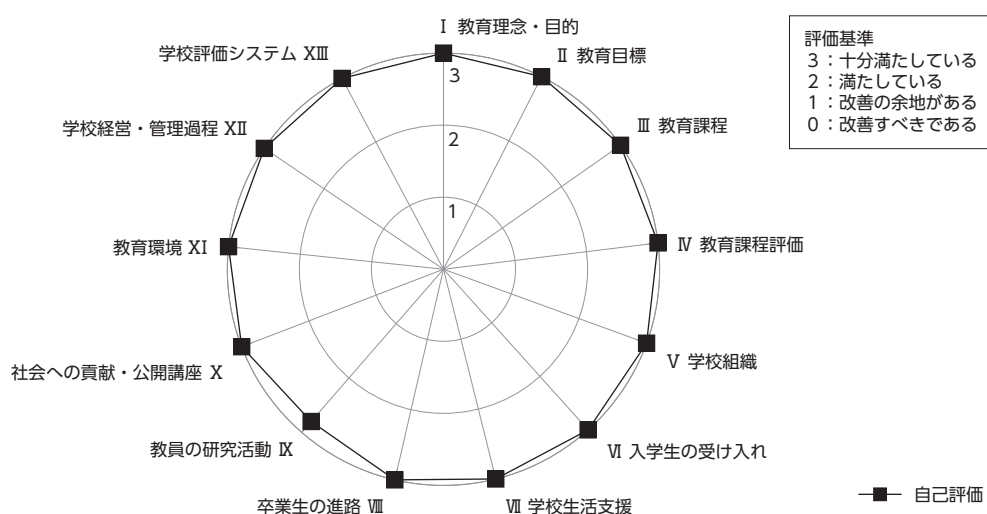
昨年度の評価をもとに改善に取り組み、学内で自己点検・自己評価を行った。今年度特に取り組んだ内

容は次の3点である。

1. 改正カリキュラム改正に向けて検討を重ねた。教育の質向上のためにICTを積極的に取り入れ、コロナ禍での学習支援としてだけでなく、遠隔授業や演習を取り入れてきた。看護技術演習では感染予防対策をし、少人数での対面授業を実施してきた。臨地実習では感染が急激に拡大した影響で、学内実習への変更を余儀なくされた。学内実習のために新たに学内実習指導案の作成、実習到達度の見直し、学内の技術チェックなどを行うため、急な変更に対しマンパワーを必要とした。感染拡大が落ち着いた時期は実習施設で可能な限り実習できるよう協力を得ることができた。
2. 前年度の応募・入学状況をもとに、高等学校への訪問数を絞り込んで訪問した。オープンキャンパスは感染拡大状況をみながら来校型とWebで実施し、学生確保対策に取り組んだ。
3. 今年度は研究活動にも積極的に取り組み、成果を挙げることができた。  
次年度は改正カリキュラムを運用し、更なる教育の質の向上と教育環境の充実が図れるよう取り組んでいく。

評価項目	評価の視点	項目	R3年度
			自己評価
I 教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	6項目	3.0
II 教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	6項目	3.0
III 教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し計画的に進められているかについて評価します。	26項目	3.0
IV 教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	6項目	3.0
V 学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	9項目	3.0
VI 入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	5項目	3.0
VII 学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	15項目	3.0
VIII 卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	7項目	3.0
IX 教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	4項目	2.8
X 社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	7項目	3.0
XI 教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	7項目	3.0
XII 学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	7項目	3.0
XIII 学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	5項目	3.0
全体平均			3.0

## 令和3年度 看護師養成所自己点検・自己評価結果（看護学科）



## | 令和3年度 学校評価 結果（助産学科） |

### 学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は平成27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。

国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による令和3年度の学校相互評価は、COVID-19感染拡大に伴い中止になりました。令和3年度は自己点検・自己評価と学校関係者評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。

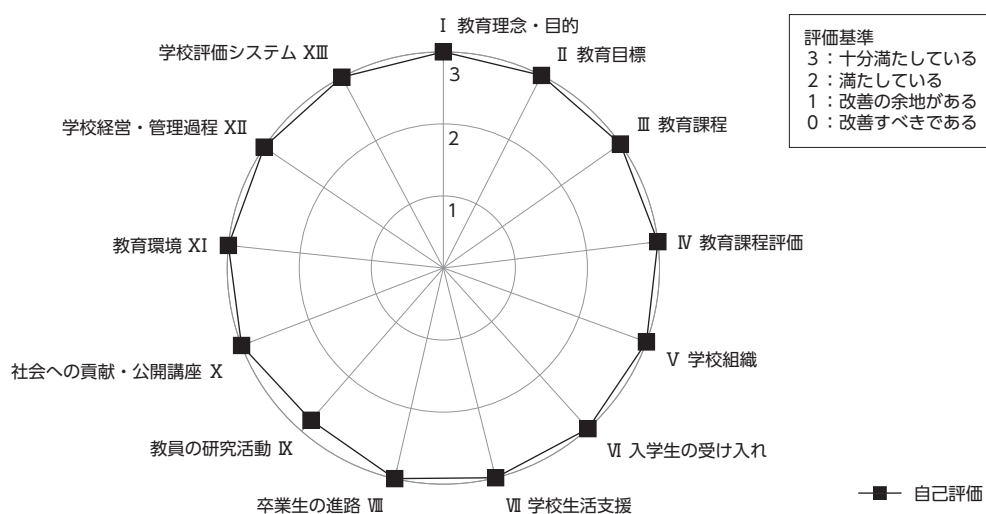
### 学校評価（助産学科）総評結果

昨年度の評価をもとに改善に取り組み、令和3年度の自己点検・自己評価を行った。評価結果は昨年に引き続きすべての評価項目について「3. 十分満たしている」の評価であった。とくに、取り組んだのは次の4点である。

1. 教育課程：新カリキュラムで強化を求められている内容は既に取り組んでおり、学校独自の臨床推論プログラム、シミュレーション教育、OSCE等を継続的に進めてきた。またCOVID-19の影響を最小限にし、学生の学びの質を保証するために動画やオンデマンド配信を積極的に取り入れ、教育の質の確保を行っている。実習指導者と連携をとり、令和3年度からルーブリック評価表を活用し、学生のパフォーマンスをより客観的、段階的に評価できるようにした。
2. ICTを活用して国立病院機構3校の合同教育システムを構築し、3校で教材共有や国家試験対策などを行うことで国立病院機構の助産学科の質の向上につながっている。
3. 実習指導教員との連携ができ、ICTを積極的に導入して効率的に業務を行えるようにすることで、超過勤務が改善されている。
4. 教員の研究活動：継続的に研究に取り組み、教員は研究発表やシンポジストを行うなどの成果を挙げた。次年度は改正カリキュラムを運用し、さらなる教育の質の確保と教育環境の充実が図れるよう取り組んでいく。

評価項目	評価の視点	項目	R3年度
			自己評価
I 教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	6項目	3.0
II 教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	6項目	3.0
III 教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し計画的に進められているかについて評価します。	26項目	3.0
IV 教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	6項目	3.0
V 学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	9項目	3.0
VI 入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	5項目	3.0
VII 学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	15項目	3.0
VIII 卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	7項目	3.0
IX 教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	4項目	2.8
X 社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	7項目	3.0
XI 教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	7項目	3.0
XII 学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	7項目	3.0
XIII 学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	5項目	3.0
全体平均			3.0

### 令和3年度 助産師養成所自己点検・自己評価結果（助産学科）



## | 令和3年度 学校関係者評価報告書 |

### 1. 学校関係者評価の目的

- 1) 教育に関する知見を有する者、臨地実習施設の関係者、看護管理者経験者、卒業生などの学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。
- 2) 学校関係者との連携協力により、特色のある学校づくりを推進する。

### 2. 学校関係者評価委員名簿

規程	所属	氏名
教育に関する知見を有する者	京都教育大学 教育学科 教授	相澤 伸幸
臨地実習施設の関係者	京都医療センター 看護部長	福井久美子
看護管理者経験者	洛和会TQM支援センター 部長	伊藤 文代
卒業生（卒後一定のキャリアを持った者）	京都医療センター 看護師長	橋本 恵

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：令和4年3月15日（火） 10：00～11：30

実施場所：京都医療センター附属京都看護助産学校 会議室

### 4. 学校関係者評価委員会の実施方法

- 令和3年度の学校重点目標についての取り組みと課題を報告（看護学科・助産学科）
- 令和3年度の自己点検・自己評価結果の報告
- 学校関係者からの学校運営への評価と、課題解決に向けて学校関係者と検討

### 5. 総評

1. 遠隔授業について
  - ・今年度は昨年度と比較し、遠隔授業の運営がスムーズであった印象を受けた。学生側のスキルも高いように見受けられる。
  - ・教員や学生は遠隔授業に慣れてきているが、臨床側から講義にいったときには学生の反応を読み取りづらく、授業に対する姿勢が分かりにくい側面がある。
  - ・よい看護師を育てるには、オンラインの割合がこれ以上増えすぎないことを望む。誠実性や実際に触れて、看て、考えることの大切さについて集合教育の良さを残してほしい。
2. コロナ禍の弊害について
  - ・仲間づくりや社会性を養う場が制限されている。横のつながりが活発になる社会状況の改善が望まれる。
  - ・今年度は学生フォーラムを京都が主担当校となりオンラインで開催し、近畿の国立病院附属看護学校5校の学校間の横のつながりを持つことができた。また、自治会では毎年、看護の日やクリスマスの行事を行っている。今年は、うちわやお花を作成して病院・老健施設・保健所など実習施設を中心に配布し、地域とつながる活動も行っている。
3. 臨地実習について
  - ・コロナ禍前より、実習の真剣みが増したという意見が臨床側から聞かれることがある。
  - ・学生側も学内と臨地のすみ分けができ、考えを整理する時間が持てるので学びを深めることができている。また、学内実習ではリモートで実習指導者に質問や意見交換ができる機会を設けたことは学生の満足度につながっている。